

令和8年度 第1回安曇野市自転車活用推進協議会 会議概要

1	会 議 名	安曇野市自転車活用推進協議会
2	日 時	令和8年8月27日（木） 午前9時30分から午前10時48分まで
3	会 場	安曇野市役所 共用会議室307
4	出 席 者	新井委員、太田委員、宮崎委員、小林可奈子委員、藤澤委員、岩野委員、小林毅委員、熊井委員、小宮山委員、伊藤委員、佐藤委員、二木委員（12名）
5	欠 席 者	松島委員、平林委員
6	市出席者(事務局)	黒岩部長、丸山課長、丸山補佐、中田係長、上羽係長、佐々木主査
7	公開・非公開の別	公開
8	傍聴人	なし

協 議 事 項 等

【次第】

- 1 開会
- 2 商工観光スポーツ部長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 新規委員の紹介
- 5 会議事項
 - (1) 安曇野市自転車活用推進計画に係る令和7年度の取り組み状況について
 - 【資料1】
 - (2) 安曇野市サイクリングコース新設に係る検討結果について
 - 【資料2】
 - (3) その他
- 6 閉会

【会議事項】

(1) 安曇野市自転車活用推進計画に係る令和7年度の取り組み状況について

- ＜事務局から説明＞【資料1】
- 委員 1 7月18日から20日まで開催された全日本選手権は、皆様のご協力により大成功に終わった。自転車連盟会長の橋本聖子会長からも感謝の言葉をいただいた。大会の意義は選手が日本一を争うことのみならず、来場した子供たちが『カッコいいことをやってみたい』と胸を熱くしたことにある。今後も子供たちの成長と自転車の活用に向けて頑張るので、ご協力をいただきたい。
- 委員 2 全国大会の開催は素晴らしいことであるが、今後の大会誘致の見込みや、誘致できそうな大会はあるのか、見通しを教えていただきたい。
- 委員 1 全日本選手権は来年度は熊本県で開催が決まっている。毎年公募がかかるため、その都度手を挙げて招致する形となる。来年はまずマウンテンバイクレースが主催するシリーズ戦『グループドジャポン』の招致の申請を9月中旬に目指している。それ以降は再び全日本選手権の招致を目指したい。
- 委員 3 4ページのサイクリングオアシス加盟店でサイクルスタンドの設置が9割以上とあるが、加盟店は何店舗あるのか
- 事務局 64店舗である。スタンドラックのみではなく、駐輪スペースを確保している店舗も含まれている。
- 副会長 通学通勤での自転車活用をより多くの人にしてもらいたい。通勤での活用を促進する方法を課題としておいていただきたい。また、4月から青切符制度が適用され、自転車乗車中の携帯使用で反則金1万2千円が科される。安曇野でも既に青切符が切られているようであり、一般の人にも周知していただきたい。

委員 4	今年安曇野で全日本選手権が開催されたことで、自転車競技界に安曇野に素晴らしいコースがあることが知られた。5、6年経つと忘れられてしまうため、この1年以内に積極的に何か打ち出した方が効果的である。競技者向けだけでなく初心者向けの大会を開催し、大滝村のような有名なマウンテンバイクイベントと組むのも良いのではないかな。
事務局	記憶に新しいというのは重要である。市民にコースや大会の存在を知ってもらうとともに、秋頃に初心者向けのマウンテンバイク教室を検討している。
委員 5	3 ページ目のeバイクの利用促進で、展示紹介に18名が来訪したとのことだが、その規模や雰囲気を知りたい。また、eバイクは本体が高額であるため、展示会や体験会の先にある利用促進に向け、補助金制度を検討されているかどうか知りたい。
事務局	展示はアーバンスポーツフェスの展示ブースの一つとして設けたもので、様々な目的の来場者が含まれるがeバイク試乗のために来場されている方もいた。eバイクではなく、電動自転車の補助金制度を導入されている自治体は存在するが、当市では導入には至っていない。導入に対する効果は見えづらいものの、今後eバイクを活用して環境負荷や健康増進に役立てたいという市民の思いが強くなれば、検討する余地はあると考える。
会長	安曇野市での自転車利用者の属性について調査結果はあるか。どのような層が一番使っているのか。
事務局	肌感覚であるが、一番多いのは高校生、次が子供である。趣味でロードやマウンテンバイクをやられている方もこの地域では比較的多いと思われる。
会長	これまで議論はイベント関連が多く、生活の中に自転車を根付かせる視点が不足していた。副会長の意見にもあったが、通勤での自転車活用を推進するには、まちづくりとして誰が関係するのかという視点が重要である。住民が使いやすい街づくりという意識を持つていく必要がある。
委員 6	サイクルスポーツ団体の活動支援や職業体験の受け入れは、学校現場として非常にありがたい。以前教頭をしていた時、不登校の児童がマウンテンバイクをきっかけに地域の人とつながり、外へ出られるようになった事例を経験した。多様な学びを求める子供たちに対し、学校だけでは用意しきれない場をこうした活動で提供している。今後とも支援と協力をよろしくお願いしたい。
委員 1	マウンテンバイクコースには平日に学校に来られない子供がよく訪れており、少しずつ外に出られるようになった事例も多い。しかし、職員の人数や受け入れの体制に厳しい現状がある。子供たちの居場所となるような施設の活用を行政として考えていただきたい。
委員 7	資料 1 の実績に経済効果の数値が入っていないが、統計が取れていないのか教えていただきたい。観光地としての側面から、イベントやシェアサイクル事業の経済効果をお示しいただけるとありがたい。
委員 8	シェアサイクル事業の昨年度の実績は3,954,000円である。試験的に12月から3月にシェアサイクルを置いたこともあり、前年度より売上はかなり伸びている。
事務局	大会の経済効果は昨年まで数値化できていない。選手は2泊3日のスケジュールで、地元の宿泊施設や飲食店を利用してもらうよう努めており、ある程度のお金は落ちていると想定しているが、確証はない。委員 7 が指摘したいのは、自転車を通した経済効果が市全体としてどうなっているかということだと理解している。次期第二次計画の中で表現できればと考えるので、知恵を出していただきたい。
委員 9	全国大会やフェス等のイベントは、市民向けの広報に載せてアピールしているのか、それとも

	ホームページ上で検索しないとたどり着けないのか。広報であれば誰でも見ることができるが。
事務局	広報誌に記事の特集を掲載するほか、ポスターやチラシを作成して市内各所に掲出・配布し、SNSも含めて使えるものを全て使って告知を行った。小学生や中学生にも興味を持っていただきたく市内小中学校にもチラシを配布した。
(2) 安曇野市サイクリングコース新設に係る検討結果について	
	＜事務局から説明＞【資料２】
会長	このサイクリングコースは観光向けが前提で作られたということではよろしいか。
事務局	当初は観光利用を軸に作られたが、市民の皆様にもぜひ使っていただきたい。いかに市民に使ってもらうかが課題である。
委員 3	既存コース上の矢羽根は現在コースのところのみあるが、コース上に矢羽根を打ち付け、ここがコースであること、走れば安全であることが分かるようにしていただきたい。自転車は規制強化により昔より走りづらくなったと感じる。コースの脇も整備され、走りやすく安全に走れる地域として打ち出していただきたい。
委員 1	このサイクリングコースは、当初は観光地としての安曇野らしさや食を繋ぐシステムを盛り込むべきだと提案したものの、公平性の問題で排除された経緯がある。コースのビジョンが明確でないことが大きな問題である。観光客が走っていれば市民も走ってみようと思うはずだが、安曇野では子供が自転車に乗ること自体が少ない。コースを走りながら関心を引く仕掛けが必要である。そもそもコース自体が市民にあまり知られていない。短距離では無く、長距離で作ったのは、後々予算が取れた時には短距離にもできるという考えからである。
(3) その他	
事務局	○「第２次安曇野市自転車活用推進計画」の策定に係る今後の日程について 安曇野市自転車活用推進計画が令和９年度末に計画期間終了を迎えるため、第２次計画策定にむけて、策定支援業者を公募し、必要な手続きを経て先週に策定支援業者を決定した。計画策定にあたり、今後の方針や進捗状況の共有のため、都度協議会を開催し、皆様にご審議をいただきたい。本年度は、現行計画の評価・検証、次期計画策定のための市民アンケートの実施、アンケート結果を踏まえた対応方針の検討まで行いたいと考えており、本年度中に２回若しくは３回の協議会開催を考えている。 午前10時48分 了

令和 8 年度 第 1 回 安曇野市自転車活用推進協議会 会議次第

令和 8 年 8 月 27 日（木）

午前 9 時 30 分から

会場：共用会議室 307

1 開 会

2 商工観光スポーツ部長あいさつ

3 会長あいさつ

4 新規委員の紹介

5 会議事項

- (1) 安曇野市自転車活用推進計画に係る令和 7 年度の取り組み状況について
… 【資料 1】
- (2) 安曇野市サイクリングコースの新設に係る検討結果について
… 【資料 2】
- (3) その他

6 閉 会

安曇野市自転車活用推進計画 令和7年度取り組み状況について

目標		施策		取り組み		R7年度取組状況			成果及び課題	現在の取組	今後の事業（次年度含む）	担当課	通番
						項 目	事 業	実 績					
1	自転車を活用したスポーツによる健康づくりの推進と青少年の健全育成	1	サイクルスポーツの推進	1	サイクルスポーツイベント、教室等の開催	教室等の開催	市主催の安曇野市サイクリング教室開催（定員20名）	7名	家庭用の自転車を含め、自身の自転車を教室に持参し、自転車全般の乗り方に係る教室を開催。自転車の乗り方を改善することで姿勢や呼吸の仕方等日常生活の体の使い方も改善されるような教室内容であり、参加者から好評であった。 参加者が定員に満たないことが課題である。	市民が気軽に参加できるような教室内容となるよう教室運営を工夫。	今年度の教室参加者からの意見や参加状況を加味し、次回の教室運営の参考とする。	スポーツ推進課	1
						全国大会の誘致	○マウンテンバイク DOWNHILL SERIES 令和7年11月8～9日にかけて安曇野市マウンテンバイクコースで開催し、県内外のトップライダーが出走した。 ○全日本自転車競技選手権大会 令和8年度に開催される全日本自転車競技選手権大会に向けて、各種準備を行った。 R7.7.3 実行委員会設立総会 R7.8.6 第1回運営委員会 R8.2.20 マウンテンバイクコース周辺道路拡幅工事しゅん工	ODOWNHILL SERIES ・約500名 ○全日本自転車競技選手権大会 ・協賛4社 ・ボランティア55名	ODOWNHILL SERIES 【成果】 ・コース開設して以来初めての大会であり、多くのライダーに施設を知ってもらい、安曇野市マウンテンバイクコースの知名度向上につながった。 【課題】 ・同様の大会を引き続き誘致していくための取り組み、スタッフ、コースの維持。 ○全日本自転車競技選手権大会 【成果】 ・全日本選手権の開催地として、多くのライダーにコースの存在を周知できた。 ・大会仕様のコース整備を行うことで、テクニカルなコースの実現につながった。 【課題】 ・大会終了後のコースの維持。 ・大会終了後に利用者が増えた際の受け入れ体制の拡充（人員の補充）。	令和8年7月18～20日にかけて全日本大会を実施した。 全日程を通して、計2,500人程の来場があった。	・新たな大会の誘致 ・大会終了後のコースの維持整備	スポーツ推進課	2
				2	サイクルスポーツ環境の充実	サイクリング教室の講師起用	インターネットでの情報収集により、地域で個別にサイクリング教室等の活動を行っている潜在的なサイクルスポーツ専門家を発掘。 同人に対して、市が主催するサイクリング教室の講師を依頼・起用し、その知識や経験を直接市民の指導に活かす機会を創出した。	1名	計画に掲げられた「経験者の発掘と活躍できる環境の提供」を具体化することができた。 一方で起用した講師の知見を市の他の事業（ルート開発や安全教育など）へどのように波及させていくかが今後の課題。	10月開催の教室に向けた教室運営の検討。	今年度の教室参加者からの意見や参加状況を加味し、次回の教室運営の参考とする。	スポーツ推進課	3
		2	自転車を活用した健康づくり推進	3	e-bike・電動アシスト自転車利用の促進	①アーバンスポーツフェス2025出展 ②MTBコースにおけるヤマハとの合同e-MTB試乗会	①e-MTBの体験試乗会ブースを出展 ②MTBコースにおいてヤマハと合同でe-MTB試乗会をMSJが主体となって実施	①10/4開催 18名参加 ②利用者63名	体力に不安のある方や高齢者にもスポーツ体験を提供できた。 ヤマハとの連携で安全・質の高い体験会を実施。 体験会を継続利用につなげる仕組みづくりが課題	市民にe-MTBを体験していただくことのできる機会を検討中。	HPやSNS等において、e-bikeの効能等についての情報発信の検討。	スポーツ推進課	4
				1	サイクリング、サイクルスポーツの普及活動の推進	サイクリングマップの配布	①大型サイクリングイベントにおけるマップ配布 ②サイクリングコースをテーマとしたイベント開催（安曇野スイーツライド）	①松本情報工科専門学校が名古屋サイクルスポーツデイズに出店時に、サイクリングコースマップを600部配布。 ②11名	①県外者にサイクリングコースのPRを行うことができた。 ②50名以上を想定していたものの、参加者は大幅に少なく、安曇野市民の自転車イベントに対する興味関心が非常に薄いことが明白となった。	サイクリングコースの普及等に向け、スポーツ推進課インスタグラム等を用いた市民向けの情報発信。	効果的な情報発信に向けた検討	スポーツ推進課	5

目標		施策		取り組み		R7年度取組状況			成果及び課題	現在の取組	今後の事業（次年度含む）	担当課	通番
						項 目	事 業	実 績					
1	自転車を活用したスポーツによる健康づくりの推進と青少年の健全育成	2	自転車を活用した健康づくり推進	2	健康増進の広報啓発	自転車の運動効果とサイクリングコースの紹介のチラシを若年者健診等で配布	約300枚	日常生活での自転車利用を習慣化することで、身体活動の向上、運動習慣の定着が図られ、生活習慣病の予防につながることを周知した。	自転車の運動効果について、健診等で情報提供を行う。	現在の取り組みを継続	現在の取り組みを継続	健康推進課	6
				3	介護予防の推進	未実施						高齢者介護課	7
		3	スポーツに活動を通じた青少年の健全育成	1	サイクルスポーツ団体の活動支援	サイクルスポーツ団体の活動支援	①指定管理者（MSJ）の自主事業活動（放課後クラブ活動の受け入れ） ②堀金小学校クラブ活動におけるMTBクラブ講座の実施	①延べ153名参加 ②3回実施（小学生9名が参加）	【成果】 ・子どもたちの安全な活動拠点(サードプレイス)を提供。 ・青少年の健全育成・健康増進と、将来の競技者発掘の裾野拡大に寄与。 【課題】 ・参加者増加に伴う安全管理体制の徹底と、専門スタッフ(コーチ)の安定的確保。 ・体格に合わせたレンタル機材の拡充と維持管理体制の構築。 ・学校での単発体験を継続活動につなげる導線づくりと、市内他校への展開。	・R8秋も「放課後クラブ」を継続実施し、「地域の居場所」として定着を図る。 ・全日本選手権のエキシビジョンレースが好評だったため、市民の要望に応え11月に「市民レース」を新規開催予定。	現在、市内で進められている「中学生の部活動の外部委託（地域移行）」の動きを見据え、当施設のMTBコースを単なるスポーツ施設としてだけでなく、「地域の子どもたちが安全に集い、交流できる居場所（サードプレイス）」として提供し、新たな部活動の受け皿としての役割を積極的に担っていく。	学校教育課 スポーツ推進課	8
						職業体験受け入れ（MSJが主体）	①三郷中学校 ②安曇中学校	①5名 ②1名	【成果】 ・地元教育機関と連携し青少年の健全育成に貢献。 ・コース整備や施設管理等の裏方業務を通じ、里山活用の意義や施設の社会的役割を次世代へ伝達。 【課題】 ・屋外活動における生徒の安全確保と、通常業務との両立を図るスタッフ配置・スケジュール調整。	・この秋、豊科南中学校3名・三郷中学校2名を受け入れ、体験活動を実施。 ・複数校からの受け入れにより、部活動地域移行に向けた安全な受け入れ体制と指導内容の実践的検証を実施。	・受け入れ実績を踏まえ、安全管理・指導体制の課題を検証しプログラムの質を向上させる。 ・市内他校への受け入れ拡大と、MTBコースを活用した継続的な放課後活動拠点の定着化に向け、学校機関との連携を強化する。	学校教育課 スポーツ推進課	9
2	自転車を活用した周遊・滞在型観光振興による地域の活性化	1	安曇野サイクルブランドの構築	1	自転車と安曇野の歴史、文化、景観、食を生かした観光コンテンツの開発	安曇野市観光協会や観光事業者と連携したサイクリングブランドの構築	①自転車を用いた観光ツアーの造成クラツー サイクリングツアー ②安曇野サイクルロゲイニング2025の実施	①11月催行で7名が参加 ②5～12月の実施で135名が参加	①一泊二日のツアーで天候にも恵まれ、ガイドの臨機応変な対応もあり、参加者からはツアーを評価するコメントをいただいた。 ②参加者を増やす施策として、企画名を親しみやすいものにする案やシステムのアプリ化を進める方向性が検討されることになった。	①ガイド料とツアー料金のバランス ②企画名を「安曇野ぐるっとサイクリング」に改名。観光客のみではなく市民利用も視野に入れ周知を行っている。またAppストアでダウンロード可能な専用アプリを開発し、利用促進を図っている。	自転車を用いた観光ツアーの充実に向けた検討	観光課	10
				2	シェアサイクル・レンタサイクルを活用したポタリングの推進	シェアサイクルの活用促進	シェアサイクルの稼働	利用数 6,215回	令和6年度から利用数が156%増加した。利用が少ないステーションへの配置を見直す必要がある。	各ステーションごとの適正台数の検討 車両の経年劣化に伴う対応	同左のとおり、データに基づいた配置について検討を継続していく。	観光課	11
				3	自転車の種類や地域の特性を生かしたモデルルートの設定	未実施						観光課 スポーツ推進課	12
				4	ICT等を活用した情報発信	Web、SNS、動画の活用	安曇野市観光協会の公式Instagram/Threads/Facebook/YouTubeでのプロモーション	フォロワー数 Instagram 4.7万人 Threads 9千人 Facebook 1.6万人 YouTube 1,580人	SNS利用者の年代層を踏まえた新規フォロワーの獲得が課題。	情報発信の継続	「X」等新たなツールの導入を検討。	観光課	13

目標		施策		取り組み		R7年度取組状況			成果及び課題	現在の取組	今後の事業（次年度含む）	担当課	通番
						項 目	事 業	実 績					
2	自転車を活用した周遊・滞在型観光振興による地域の活性化	1	安曇野サイクルブランドの構築	5	市民・来訪者向けイベント開催時における自転車利用のPR	①信州サイクルロゲイニング2025安曇野ステージの開催 ②アルプスあづみのセンチュリーライド	①5月10日（土）開催。安曇野市内にコントロールを設置し、制限時間内に自転車でポイントを多く集めるゲーム。普通の自転車やEバイクのクラスを用意。 ②桜：4月19日(土)～20日(日)、緑：5月24日(土)～25日(日)松本から白馬間を自転車で移動するイベント。安曇野市は礪山公園にてエイドを設置。	①75人 ②2,505人	①リピーター、ファンづくりに向けた内容を充実させていくことが課題である。	①夏の特別企画を開催し、観光客のみではなく市民にも興味を持ってもらえるような企画を検討している。	①利用者増に向けた情報発信、企画の検討	観光課	14
				1	「Japan Alps Cycling」等と連携した広域的なサイクリング環境の整備	未実施						建設整備課	15
				2	「自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会」等の事業との連携	自転車によるまちづくりの先進事例に関する情報共有	勉強会の参加	4回参加	国の自転車活用推進計画の内容等について学んだ。	国の計画が第3次計画に改訂されたことを受け、改訂内容の詳細について確認を行っている。	安曇野市自転車活用推進計画に取り入れるべき事項等があれば取り入れる。	スポーツ推進課	16
				3	官民協力による自転車活用のための環境整備と民間主導によるプラットフォームの立ち上げ	未実施						観光課	17
		2	広域連携・官民連携の推進	4	官民事業等、自転車活用に関する情報収集と積極的な発信	①Lively信州2025 ②るるぶ安曇野松本白馬26 ③るるぶ飛騨高山英語版26 ④るるぶ信州27（3月発行）記事掲載	①Lively信州2025にシェアサイクルやサイクリングオアシス、サイクリングコースの紹介を掲載 ②～④るるぶにあづみのやまびこ自転車道」及び「安曇野市サイクリングコース・安曇野市MTBコース」に係る記事を掲載。		既存のサイクリングコースやシェアサイクルの紹介に加え、新たな視点や魅力を取り入れた情報発信の充実が必要。	情報発信の継続	同左	観光課	18
				5	公共交通との連携による広域的な利用環境づくり	サイクルトレインの運行	大糸線活性化協議会が実施する事業として9/27、10/18に運行。	各日30名	JR西日本が運行する区間（南小谷～糸魚川）においてサイクルトレインを実施したが、安曇野市域を含むJR東日本区間では導入に至っていない。	導入に向けた議論の継続	同左	政策経営課	19
		3	受入れ環境の整備・充実	1	サイクルオアシス、サイクリングガイドなど受入サービス体制の構築	サイクルオアシスなど受入サービス体制の構築	安曇野サイクリングオアシス加盟店舗の増加に向けた取り組み	64件	サイクリングオアシス加盟店舗増加に向けた営業。 サイクリングオアシスの知名度が低いことが課題。	手に取ってもらいやすいA4サイズのチラシを作成し、市内各所で配布中。	安曇野ぐるっとサイクリングに併せたPR	観光課	20
				2	多言語化、ユニバーサルデザイン化へ取り組み推進と訪問者へのおもてなし向上	MTBコースの利用申請書の多言語表記	インバウンド対応の1つとして、施設利用の申請書記入例を多言語で表記するよう変更した。	英語、フランス語、中国語、韓国語	【成果】 ・観光協会や地元事業者との連携を深め、サイクルブランド構築の基盤を形成。 ・外国人利用者の利便性向上と窓口業務の効率化を実現。 【課題】 ・具体的な体験プログラム(食・文化を巡るサイクリングツアー等)の商品化と戦略的プロモーション。 ・案内標識や観光スポット解説など、サイクリング環境全体の段階的な多言語化の推進。	多言語記入サンプルの窓口常設に加え、スタッフへスマートフォン同時通訳アプリを導入し、口頭案内も円滑に対応可能な体制を整備。	外国人観光客の受け入れ体制の更なる改善に向けた検討	スポーツ推進課	21
					自転車ガイドの導入	自転車を含むアクティビティガイドの育成		3名	自転車だけでなく、他アウトドアなど複合的なガイドの育成が課題である。	左記課題をふまえた既存の2名のガイドの再育成。	ガイドによるサービス提供の場の創出について検討を行う。	観光課	22

目標		施策		取り組み		R7年度取組状況			成果及び課題	現在の取組	今後の事業（次年度含む）	担当課	通番
						項 目	事 業	実 績					
3	自転車利用促進による環境負荷の低減	1	自転車通勤等の促進	1	自転車利用のメリットに関する広報啓発	①通勤や買い物等の近距離の移動を自転車に切り替えることによるメリットについて周知啓発する ②市HPでのスマートムーブについての掲載	①広報あづみのR8.3月号にて自転車特集記事を掲載 ②CO2削減の観点から、自動車からの移動手段の転換として、自転車・徒歩の活用を紹介	①巻頭カラー4P掲載 ②市HPにおける記事掲載	継続して周知していく必要がある。	新たな広報機会の検討	新たな広報機会の検討	スポーツ推進課 環境・ゼロカーボン推進課	23
				2	職場（事業所）への自転車配置の推進及び近距離の移動における自転車利用	市職員スマートムーブ通勤の実施	市職員スマートムーブ通勤（ノーマイカーまたはエコドライブ通勤）の実施	6月：788人参加、 2,017kg-CO2の削減 9月：809人参加、 3,989kg-CO2の削減	継続して実施していく必要がある。	市職員スマートムーブ通勤の実施（6月）	市職員スマートムーブ通勤の実施（9月）	環境・ゼロカーボン推進課	24
				3	e-bike・電動アシスト自転車利用の促進	アーバンスポーツフェスにおけるe-bikeの展示	展示を行うとともに、e-MTBの試乗体験会を実施。	18名が乗車	雨天により参加者数が例年と比較し少なかった。 一方でe-MTB試乗体験をするためにイベントに来場した人もいたことから、今後一部の需要に対応できるよう展示を行う必要性を感じた。	体験会、展示会等の開催の検討	市サイクリング教室での乗車体験会を検討中。	スポーツ推進課	25
		2	自転車リサイクルの推進	1	不要自転車のリサイクル	不要自転車のリサイクル	家庭で不要になった自転車を各リサイクルセンターで受入れ、再利用できるものを修繕して、環境フェアで抽選販売する。	R7.10環境フェア 販売50台	住民からは高い評価を受けている事業ではあるが、修繕のできる業者不足（担い手不足）が深刻である。	不用自転車の受け入れ、業者での修繕	修繕業者の継続できる間は継続していく予定。	生活環境保全課	26
						MTBコース整備時の伐採木の再利用	コース整備に伴って発生した伐採木をバイオマス燃料として再利用する取り組みを民間業者に委託。（MSJ自主事業）	R7.4月～R8.2月まで 総重量：86.71t	【成果】 ・脱炭素に貢献するとともに、適切な伐採により里山環境の保全と利用者の安全確保を両立することができた。 ・民間業者への委託により大規模な処理を効率的に実施。 【課題】 ・撤出時の路面・自然環境および周辺施設（キャンプ場等）への影響と安全対策。 ・中長期的に持続可能な資源循環スキームの確立。	・今年度より外部委託を見直し、施設内資源を自前で再利用する循環型モデルへ転換。 ・MTBコース・キャンプ場で発生した倒木・枯死木を加工し、全日本選手権のコーステープ用木杭として活用。処理委託費・資材購入費を削減。 ・倒木・枯死木の速やかな伐採により、利用者の安全確保と里山保全を両立。	・木材再利用のノウハウを活かし、土留め・案内標識・ベンチ・新など施設管理部材の「自給自足」を推進。 ・里山保全活動を子ども向けのアウトドア体験・環境教育プログラムとして展開予定。	スポーツ推進課	27
4	自転車通行空間の整備と利用環境の向上	1	自転車ネットワーク計画の推進	1	①安曇野市サイクリングコース ②Japan Alps Cycling Road	①コース整備（Cコース） ②未実施	①矢羽根の設置・補修 標識の新規設置	①16箇所 2箇所	①Cコースの市道について、矢羽根の修繕及び新規設置を行った。またルートが分かりにくい場所に標識を新規に設置した。	②R8案内標識の設置を予定	①経年劣化による矢羽根の補修を今後も行っていく。 ②工事予定区間の整備は次年度以降	建設整備課	28
				2	安曇野市サイクリングコースの設定	安曇野市サイクリングコースの活用	プロモーション動画の作成	安曇野市サイクリングコースの広報のため、プロモーション動画を自主作成。	秋バージョンを作成	スポーツ推進課インスタグラムで配信するための動画や夏編動画の制作について検討中。	サイクリングコースの更なる利用促進に向けた検討	スポーツ推進課	29
		3	自転車通行空間の環境整備	1	自転車通行空間の整備	明科駅前国道19号	未実施	—	—	国が道路拡幅工事を行っている。	道路拡幅工事が完了後、自転車通行帯を設置する。	建設整備課	30
						市道豊科1級24号線	矢羽根設置済み	—	—	補修の必要があれば都度対応する。	—	建設整備課	31
						市道豊科1級15号線	矢羽根設置済み	—	—	補修の必要があれば都度対応する。	—	建設整備課	32
				2	道路標識・道路標示・信号機の適切な設置・運用	適宜対応	—	—	—	—	継続事業として実施していく。	建設整備課	33

目標		施策		取り組み		R7年度取組状況			成果及び課題	現在の取組	今後の事業（次年度含む）	担当課	通番
						項 目	事 業	実 績					
4	自転車通行空間の整備と利用環境の向上	4	駐輪場やサイクルスタンド等の設置	3	道路の適切な修補	道路の適切な補修	安曇野市公式LINEを用いた道路破損状況等の通報を受け付け、逐次対応するもの。 市民のみならず、郵便局やヤマト運輸とも連携し破損状況を報告してもらっている。	LINE 270件 郵便局 14件	定期実施している道路パトロールでは発見しきれない破損の把握が可能となり、管理業務の効率化を向上させることができた。 国道道の連絡体制を見直し、システムからメールで所管期間へ通知できるようになり、対応の迅速化につながった。	受付を継続	継続実施	維持管理課	34
				1	駐輪場の整備 再整備が予定されている施設 ア 明科駅 イ 安曇追分駅 ウ 有明駅	ア 完了 イ 完了 ウ 竣工し供用開始、完了	左記同様	左記同様	すべて計画通り完了した	特になし	特になし	都市計画課	35
				2	サイクルスタンドの設置	安曇野サイクリングオアシス加盟店の駐輪場設置の推進	加盟店の9割以上が設置	駐輪場整備の強化	加盟店の多くが駐輪場の設置に協力的であるが、そもそもの加盟店舗が少ないことが課題である。	加盟店舗の拡大にむけた取り組み 観光施設へのサイクルスタンド増設の検討	サイクリングオアシスの加盟店増加に向けた募集活動の推進	観光課	36
				3	自転車と公共交通との乗り継ぎ連携	篠ノ井線について、活性化協議会を通じてJRへ導入要望を行った。	令和7年度中に1回要望を行った。	導入に至る進展なし。 篠ノ井線（塩尻～篠ノ井）は乗客数が多く、安全性やスペース上の観点から既存の車両を使ったサイクルトレイン運行は難しい状況。	要望の継続 実現可能性の検討	同左	同左	政策経営課	37
5	自転車事故のない安全・安心な社会の実現	1	効果的な交通安全教育の推進	1	ライフステージに応じた内容・方法により交通安全教育を実施する	①自転車安全利用五則を中心とした自転車交通ルールの遵守とマナー向上対策の促進 ②自転車用ヘルメットの着用促進 ③自転車賠償責任保険の加入促進 ④日常的な点検・整備の促進	1 ①～④について小中高等学校において、交通安全教室を実施し、自転車の正しい乗り方について指導した。 2 ①～④について、高齢者対象の参加・体験・実践型交通安全教室を開催し、自転車の正しい乗り方等について指導した。 3 ①、②について、市内駅及び高等学校において、自転車利用者を対象としたヘルメット着用に関する啓発活動を行った。 4 ②について、市内自転車利用者を対象とした自転車用ヘルメット購入費支援事業を行った。 5 ①～④について、市内小学校自転車部へ呼びかけ、第58回交通安全子供自転車安曇野地区記録会を開催した。（安曇野市、安曇野警察署、安曇野交通安全協会 共催）	1 16回実施（小学校6校、中学校4校、高等学校1校） 2 1回実施（穂高自動車学校で開催） 3 6回実施（豊科高校、穂高商業高校、南安曇農業高校、一日市場駅、豊科駅、南豊科駅、） 4 申請者464人 5 R7.6.14実施（小学校3校参加） ※3校県大会出場	交通安全教室を通じて学生から高齢者に対して、自転車の正しい乗り方を指導することができた。 また、令和6年度から実施している自転車用ヘルメット購入費支援事業により、ヘルメットの正しい着用方法等について指導するとともに、補助金事業の啓発活動を実施した。 しかし、市内におけるヘルメットの着用率は、約3.5割と（令和7年7月実施）まだ低調であることから、引き続き補助金事業や啓発活動を通じて自転車事故件数及び事故による重症化リスクを減少させていかなければならない。	○小中高等学校における交通安全教室 ○自転車用ヘルメット購入費支援事業の継続 ○出前講座による自転車教室の実施 ○警察及び交通安全協会と連携した街頭啓発活動 ○戸別訪問活動による啓発活動	自転車用ヘルメット購入費支援事業	地域づくり課	38

令和 8 年 8 月 27 日

安曇野市サイクリングコースの新設に係る検討結果について

【 1 経緯】

▼現行コース（元アトランタ五輪代表・小林可奈子氏監修 目的：健康増進＋観光振興）

A コース：約 31.3km / B コース：約 21.6km / C コース：約 32km



議会指摘（令和 7 年 12 月定例会）

既存 3 コースはいずれも 21km 以上。初心者・市民には距離が長く、より気軽に利用しやすいコースのあり方を検討してはどうか。



市の答弁

「現状のコースを生かしつつ、誰もが気軽に楽しめるコース設定を検討したい。」



対応

利用実態調査の結果を確認するとともに、自転車活用推進協議会委員へのアンケートを実施し、課題と今後の対応について整理することとした。

【 2 調査による課題の把握】

令和 6 年度にサイクリングコース利用実態調査を松本大学に委託。回答 237 名であり、主な結果を下記に記載。

調査項目	結果	示唆・課題
コース認知率	32%	認知度向上が最優先課題
自転車保有率	74%	保有率は高い
月 1 回以上利用	49%	保有している人の利用機会の創出が課題
距離を「長い」	42%	長いと回答した人のうち 76%が 10～20km を妥当と回答

⇒そもそも既存コースを認知していない人が多数を占めている状況を踏まえると、距離の課題への対応のみでは利用促進に十分つながらない。

以上から、コース距離の対応とあわせて、既存コースの認知度の向上と、市民が実際に利用する機会の拡充にも取り組むことが最重要であると判断しました。

【 3 協議会委員へのアンケートの実施概要】

項目	内容
対象・回答	協議会委員 14 名を対象 / 回答 10 名、未提出 4 名
調査テーマ	①短距離コースの新設 ②長距離コースの設置 ③既存コースの利活用 ④その他
詳細資料	委員別の詳細意見は末尾「別表：委員意見一覧（別添）」のとおり

【 4 主要な意見】

(1) 短距離コースの新設について

- ・「今の 3 コースで十分。コースに沿って走らねばならないわけではない」
- ・「新設に予算を使うより、今あるものをつないだり途中で終わらせればよい」
- ・「短距離にすれば利用するのか疑問。仕掛けがなければ利用しない」
- ・（一部肯定）「初心者・ファミリー・ライトユーザーに利用しやすい短距離コースがあったら良いと感じる」、「多様なコースがあると良い」

⇒ 新設に慎重・不要とする意見が中心。必要性を認める場合も条件付きの意見が中心。

(2) 長距離コースの設置について（前回の協議会で「長距離コースがあっても良い」との意見あり）

- ・「他自治体との連携や駐車場整備が必要」
- ・「競技性重視層と観光利用層を切り分け、対象層を整理した上での整備が望ましい」

⇒ 積極的に新設を求める意見は少数。必要性を認める場合も条件付きの意見が中心。

(3) 既存コースの利活用について

- ・体験会・自転車教室の開催（既存コースの一部を実際に体験する機会を設ける）
- ・SNS 写真投稿特典、コンプリート特典、スタンプラリー等、参加しやすい仕組みづくり
- ・ガイドツアー・フォトコンテスト
- ・周辺施設とのポイント連携で回遊性を向上
- ・区間ごとの距離・所要時間を明確化し「区間利用」として打ち出す
- ・SNS（Instagram 等）、広報誌、学校チラシ等で既存コースの認知度を向上

⇒ 既存コースの活用策については、前向きで具体的な提案が多数。

【 5 総括（検討結果）】

▼スポーツ推進課としては次のとおり総括します

（1）委員意見：短距離・長距離いずれの新設も積極賛成は少数であり慎重意見が中心。一方、既存コースの利活用については、前向きで具体的な提案が多かった。

（2）利用実態調査ではコース認知率は 32%にとどまり、距離を「長い」とした人は 42%いるものの、そもそも大半が既存コースを認知していない状況である。自転車保有率 74%に対し月 1 回以上乗る人は 49%であり、距離への対応とあわせて、認知度の向上と利用機会の拡大に取り組むことが重要である。

（3）既存 3 コースは区間利用・相互接続により短距離～長距離いずれのニーズにも実質対応可能である。

⇒新たなコース（短距離・長距離とも）は新設せず、既存 3 コースの利活用の強化に注力する。

【 6 今後の方針】

①利用促進

- ・広報誌特集・イベント・自転車教室の開催（既存コースの一部体験を含む）

②広報の強化

- ・HP・広報誌への記事掲載。スポーツ推進課公式 Instagram（R8.6 開設）でコース・区間の魅力を継続発信
- ・観光客向けは観光協会との共同投稿で発信を拡大

③区間利用の提案

- ・区間ごとの距離・所要時間・見どころを整理し、区間利用として Instagram・HP で多様な楽しみ方を紹介

④コース整備

- ・地図を見ない人向けに、既存コース上の矢羽根・案内看板の充実

意見の要旨					
	短距離のコース整備について	長距離コースを整備することについて	既存のコースの活用について	その他	新コース意見まとめ
委員 1	不要。コースの長い短いは考えなくても良いのではないかな。	作るとしたら他自治体との連携が必要。駐車場も必要	SNSによる情報収集を行う。	なし	不要
委員 2	各コースの中間地点の施設とスタート地点を結ぶサイクルバスを運用して、完走しなくてもスタート地点に戻れるようにする。	AとCを有明周辺で接続、山麓線でBとCを接続して、それぞれSコースとして新設。	コース周辺の商業施設と連携し、特定のことをしたらポイントがもらえるスタンプカードのようなものを作成。	特になし	既存のものを活かして制作
委員 3	疑問。10～20キロの距離を望む人たちの傾向をもう少し探った方がよいのではないだろうか。その人たちは、ただ短距離コースにすれば利用してくれるのだろうか。何か仕掛けがなければ利用しないのではないかと思う。	疑問。長距離コースの整備においても、そのコースの目的を明確にした方がよいと思う。	市民によるサイクリングコース利・活用を推進する直接的な取組よりも、まずは市民に自転車を身近なものに感じてもらえるような地域づくりが必要ではないか。そのためにはまず、市民が「自転車とは何か」、自転車を理解することが肝要であると考える。	なし	疑問
委員 4	初心者やファミリー層、観光目的でのライトユーザーにとって利用しやすい環境づくりにつながる。「短距離＝初心者向け」に限定せず、「景観を楽しむための距離」「半日滞在に適した距離」という位置付けでの設計が重要。	長距離コースについては、競技性や走行距離を重視する層と、観光としての利用者層とを明確に切り分けた設計・情報発信が重要であり、安曇野市としてどの層を主対象とするかを整理した上での整備が望ましい。	市民利用を想定した場合、まとまった時間を確保する必要がある現行コースは、心理的・時間的な負担となっている可能性があり。区間ごとに距離や所要時間を明確化し、短時間でも利用可能な区間利用の提案	協議会で並走に関する諸外国の事例（ベルギー等）を参考とする意見もありましたが、交通量、道路幅員、専用レーンの有無、法制度や利用者の交通意識といった前提条件が異なる中で、単純に比較・導入することには慎重な検討が必要であると考えます。	あると良い
委員 5	今あるものをジョイントして長くしたり途中で終わらせるなどする。新たなコースを作るのに予算を使うのはいかがなものか。	同左	コースの認知度を高める。SNS、学校へのチラシ配布等。	協議会の内容がスポーツやサイクリングに比重を置きすぎている。一般市民が省エネや健康づくりのためにどう活用していくかの視点が必要。	既存のものを活かして制作
委員 6	不要。コースがあるからそれに沿って走らなければならないわけではない。今の3コースで十分。	不要。理由は同左。	サイクリングコースを使ったガイドツアー。コース上で自転車の入った写真を撮って投稿するフォトコンテストの実施。	そもそも今以上に力を入れるべきテーマとは思わない。3本とも良いコースであり、十分使われている。会議の2回に1回は会議室ではなく、実際に自転車に乗って安曇野を走っておいしいご飯やスイーツを食べてから意見交換するのが良い	不要
委員 7	多様なコースがあると良い	同左	特になし	安曇野建設事務所HP（自転車活用の推進）に安曇野市HP（安曇野サイクリングコース）のリンクを掲載した。（2/13 更新）	明言せず
委員 8	検討することは良いこと	同左	記載無し	記載無し	明言せず
委員 9	いくつかのルート案を提案 ○レンタサイクル利用・観光名所周遊型コース ○自由系（ポタリング・地元向け）ルート設定	走行特化型のコースとして ・既存の自転車道 ・河川沿いや用水路沿いの道路 ・比較的交通量の少ない道路 等を活用し、新たな整備工事を伴わない形で設定可能なルートについて、今後検討を進めていくことが望ましいと考える。	記載無し	地図を携行しやすい形態とした方が良い。並走可能な標識が琵琶湖近くにある。 ⇒調べたところ撤去され、現在日本に存在しないとのこと。	新設
委員10	穂高駅を起点とした2～3時間程度のコースや、山麓線方面にもできるだけ安全に2～3時間で周遊できるコースがあるとよい。	できるだけ止まらずに快適に走行できるコースがあるとよい。	体験会の開催等、市民への周知を行う。自転車に乗る楽しさを知ってもらう機会をつくる。SNSを活用し、コースごとに写真やレビューを投稿してもらい、投稿者には景品などの特典を用意する。コンプリート特典を作成。スタンプラリー等のゲーム感覚で回る仕組み。	なし	あると良い
委員11	未提出				
委員12	未提出				
委員13	未提出				
委員14	未提出				